



114
A 2012

地租改正議

大正十一年四月

但嘗テ草案スル所ノ改正法ニ三様ノ別アリテ各
施行ノ順序ヲ殊ニス然ル其歸ハ一ナリ而シテ此

議ハ其第ニ号ニ屬スル者ナリ

從前我國ノ土地タル名ハ官有但王室及武門ノ有ニシテナレニ實ハ

民有三屬スヘキ部分其官有中ニ籠レルノ理アリ但貢租ノ見奇

同アリ而シテ其作益ヲ見込ニ依テ作益不

禁アリシラ然ルニ先般地所賣買ノ禁ヲ解キ地券ヲ渡シテ人

民ノ所有ヲ固クスルニ至テハ則チ全ク官有ノ民混有ノ地トナレ

但地所賣買ノ禁ヲ解キシヤ從前竊ニ賣買セシ所ノ者ヲ賣買スルヲ
許シ其地券ヲ渡セシヤ其竊ニ賣買セシ所ノ代價ヲ記セル地券ヲ渡セ
リ改ニ前ノ民有ニ屬スヘキ理アリテ公然タラ
サル者忽チ公然タル民有ニ歸スルヲ以テナリ 而シテ其混有タルヤ所謂五
公五民六公四民等ノ名アリト虽モ全ク虚称ニシテ其実ヲ推セハ則
チ千差万違ニシテ一區ノ地所毎ニ必ス其割合ヲ異ニシ中ニ全キ
官有アリ 但貢租ノ重キカ為ニ賣買ノ價ナクシテ
已ニ無代價ノ券状トナル者コレナリ 亦全キ民有アリ 但
無税ノ地并ニ隱
田ノ類コレナリ 其不同ナルト此ノ如シ是レ其改正ヲ要スル所以ナ
リ若シ之ヲ改正セト欲セハ官其所有ヲ失ハス亦其民有ヲ奪
ハスシテ現今實地ノ割合ニ付キ判然官地民地ニ區別スル如
クハナシ而シテ其民地ニ賦課スルニ定ノ輕税ヲ以テスレハ則チ

官民共ニ其收穫ヲ増減セスニテ忽チ畫一ノ法ニ歸スル者其
策ヲ立ツルト左ノ如シ 區別ヲ行ハシメテ
區別ノ人民ノ私所有
第一條

地券持主ヲシテ銘々ノ所得 但耕種ノ諸費ヲ別
キタル全利益ヲ云フ 下其貢租 但延
米ト申立テサセ一筆毎ニ之ヲ調査シテ官民ノ收穫ヲ確定
スヘシ 但水旱ノ災多クシテ收穫一定ナリ難キ者并ニ檢見取ノ
場所等ハ五年乃至十年ノ平均ヲ調査スル且ツ銘々
所得ヲ申出ツルニ當リ若シ詐テ之ヲ減少スレハ却テ已ノ

産ヲ減少スルニ當ル所以ノ理アリ若シ又之ヲ増加シテ分
外ノ割合ヲ得ントスレハ忽チ作米ノ定量ヲ増加シテ耕
種者ノ困雜ヲ釀成スレハ到底露頭セサルヲ得サル所以等
ヲ了解セシメ精々其確實ヲ要スヘシ

第二條

右確定シタル官民收穫ノ實數ヲ以テ判然官地民地ノ區
別ヲナスヘシ

或人之ヲ雜シテ曰從前我國ノ土地タル或ハ官地ト云ヒ或ハ民
官地ト云ヒ其論紛々トシテ定ラス然リト虽モ先般地所賣

買ノ禁ヲ解キ地券ヲ渡シテ人民ノ私有ヲ固クスルニ至テハ
則チ其民地トナレト更ニ疑ヲ容レズ然ルニ今又其地ニ
就テ官地民地ノ區別ヲナサントスルハ則チ人民ノ私有地
ヲ割キテ之ヲ奪フノ理ナラスヤ
答曰大化二年班田收授ノ法ヲ制セヨリ全國ノ土地
悉ク王室ノ有ニテラサルハナシ然ルニ其法寢ク壞レ相家
權門各莊園ヲ占メ土豪田地ヲ兼併シ以テ鎌倉ノ制
ヲ則致シ封建勢ヲナスニ至テハ則チ其土地概チ武門ニ歸
シ諸侯版籍ヲ奉還スルニ至テハ則チ復タ王室ニ歸セ

リ而シテ又地所賣買ノ禁アリ故ニ從前我國ノ農民ハ決
シテ土地ヲ私有スルノ權ナク特ニ王室武門ノ土地ヲ預リ耕
セル者ニシテ恰モ西洋諸國ノ莊僕ニ類スル者ナリ國法
論ニ曰昔嘗テ主人其奴ニ莊墾ノ田ヲ授ケテ之ヲ耕種セシメタリ其奴ノ
子孫世々莊墾ニ屬シテ移ラス遂ニ莊僕ノ名ヲ得タリ若夫莊墾其主
人ヲ愛スル時モ莊僕ハ依然トシテ莊墾ニ止リテ轉セザリケリ然レ其
中世東歐羅巴諸州ノ農圃戶漸ク變シテ悉皆莊僕トナリタリ云々
土地ヲ預リ耕スヤ其貢租ヲ出スノ外多少ノ余利アリ故ニ竊ニ
其土地ヲ預ル平林所謂百姓ヲ賣買シテ其貢租ノ余利ヲ
私收セリ山口縣權令ノ管下ハ告諭スルニ從未畿町ノ地ト云モ皆下ニ
於テ自身々々ノ私金ヲ以テ買得タル地所ナルヲ租稅ヲ出
スノ故ヲ以テ其土地ヲ係テ我有ト思ハス公地ヲ預リタル様ニ心得ルヨリ
シテ之ヲ耕セハ自カラ御百姓ナト、教語ヲ用ルヲ官ニモ當然トナシ遂

其弊御用地ト号シ持主ノ支障ヲモ問ハス地所ヲ引揚ケ官物トナ
ス等ノ不條理ニ至ルト虽モ日本全國同一ノ風習ナレハ民之ヲ怪マス亦以テ
当然トナスハ事ノ甚タ誤レル者ト云フヘシ云々
ト云ヘル蓋シ本ヲ知ラサル論ト云フヘシ
而シテ先般地所賣買
至ノ禁ヲ解キ以テ之ヲ私有スルヲ許スヤ其嘗テ竊ニ賣買セ
ル者ノ者ヲ賣買シ以テ之ヲ私有スルヲ許シ地券ヲ渡シテ
其私有ヲ固クスルヤ其嘗テ竊ニ賣買セシ所ノ代價ヲ記セ
分ル地券ヲ渡シテ其私有ヲ固クス決シテ從前ノ貢租ヲ免シ
凡官地ヲ棄テ、之ヲ典ヘシニハアラサルナリ是故ニ其地券ニ記セ
ル所ノ代價ハ即チ人民私有ノ代價ニシテ其代價ニ應スル
所ノ利益ハ即チ人民私有ノ收獲ナリ而シテ其代價ニ

應セザル所ノ利益ハ即チ従前ノ貢租ニシテ實ニ官有ノ收穫
ナリ然レハ則チ此官民收穫ノ實數ヲ以テ官地民地ヲ區別
ス亦当然ノ理ナラスヤ

第三條

従来貢租ノ重苛ナルニ因テ更ニ民有ノ收穫ナクシテ無代價
ノ券狀トナレル者ハ之ヲ官地トナシ其地券ヲ官ニ收メ自持
主ヲ以テ小作人トナスヘシ

第四條

従前無税ノ地ハ隠田ノ類ト虽モ悉皆之ヲ民地トナスヘシ

第五條

官地民地ヲ區別シ了レハ則チ一村毎ニ地引帳并ニ繪圖
ヲ製セシメテ其錯乱ヲ防クヘシ

第六條

右區別シタル民地ニ就キ其收穫ノ實數ニ隨ヒ更ニ三十五
分ノ税ヲ賦課スヘシ最モ従前官廳并ニ郡村入費等
凡テ地所ニ課セ取立未レル分ハ官地民地ノ別ナク一般
ニ之ヲ賦課スヘシ
右ハ其大略ナリ施行ノ方法等ニ至テハ別紙法案ニ詳ナ

但此ノ如クニシテ後税法其正ヲ得テ全ク英國ノ地稅ト同
率ニ歸スルナリ而シテ其官地アレハ則チ毫モ政府ノ
收獲ヲ減セス以テ家祿ヲ處置シ國債ヲ償却スル
ヲ得ヘシ其法方ノ如キハ別ニ之ヲ議スヘシ

或人之ヲ難シテ曰我國從來ノ貢租ヲ以テ西洋諸國ノ地稅
ニ比スレハ其重欵タル一實ニ十倍以上ニ當ル故ニ苟モ之ヲ改
メテ人民ヲ蘇息セシメント欲セハ之ヲ輕クスルヨリ急ナルハナシ
然ルニ今其重欵ノ貢租ヲ以テ官ノ收獲ト定メ之ヲ私收

ノ實數ニ比例シテ官地民地ヲ區別シ更ニ私有ノ收獲ニ隨
ヒ新稅ヲ賦課セントスルハ當ニ從前重欵ノ苛法ヲ永存セ
シムルノミナラス更ニ苛法ヲ重ヌルノ理ナラスヤ

答曰我國從前ノ貢租ヲ以テ西洋諸國ノ地稅ニ比スレハ其
重欵タル一實ニ驚久シ然リト虽モ我國ノ貢租大ニ彼ノ國ノ
地稅ニ比シテ其異ナル所ノ者アリ察セスハアル可ラス夫西
洋諸國ノ制タル其土地概チ人民ノ私有ニシテ政府ノ保護
ヲ受クル者ナリ故ニ其收獲ノ二分五分一或ハ二十分一ヲ政府
ニ納ム是則チ地稅ナリ

我國ノ制ニモ文治元年親朝奏シテ畿内及
西南四道ニ十六國ニ課シ權門勢家ノ莊

園ヲ論セス後毎ニ米五升ヲ取り兵食ニ充テシト請テ之ヲ勅許シ又建
元年諸國地頭歲入二十分一ヲ徵スカ如キノ類アリ又曰高知藩ニモ藩
士知行歲入ノ二十分一ヲ課スルノ制アリ然ルニ我國ノ制タル全國ノ
蓋ニ是等ハ西洋ノ地稅ニ似タル者ナリ
土地概テ政府ノ有ニテ農民ハ只其之ヲ種リ耕ス者ナリ故ニ
從來ノ貢租ハ官田ノ賃租即チ貸地ノ地代ニ齊ニキ者ナ
リ次ニテ民地ヲ保護スル為ノ稅ニハアラサルナリ
英國賦稅要覽ニ曰公田ノ
租金ハ國ノ公財ニ屬ス故ニ純稅ニアラス○經濟ノ學ニ曰地代ヲ收ムル
利權ノ屬スル所ノ大畧ヲ舉ルニ此利權國民一統ニ屬スル者アリ(是即チ
官地ノ租ナリ)學校ニ屬スル者アリ貧民院病院等ニ屬スル者而シテ其
アリ一村一邑ニ屬スル者アリ各民ノ私有トナル者アリ
地代ノ量ハ人口増殖ニ學識上達スルニ從テ増加スル者ナリ故ニ
從前ノ貢租モ人民繁殖ニ耕作ノ道開進スルニ從ヒ土地ヨリ

生スル所ノ利益増加スレハ則チ亦其貢額ヲ増加スヘキノ理アリ
然ルニ政府敢テ之ヲ増サレキ故ニ官地ヲ借レル者亦切ニ余分ノ
利ヲ收ムルニ至ル是ヲ以テ其借地ニ就チ其金利ヲ見込マテ之
ヲ賣買シ以テ之ヲ私有スルノ体ヲセシ然リト虽モ從來地所
賣買ノ禁アレハ則チ決シテ之ヲ私有スルヲ許サス故ニ現今ノ實
地ヲ檢査シ從前ノ法ニ據テ貢租ヲ收入セシハ必ス許多ノ
貢額ヲ増加スヘシ而シテ人民ノ私收ニ於テハ其實許多ノ私
金ヲ出シテ之ヲ私有スル者ト虽モ素ヨリ禁ヲ犯シテ之ヲ賣
買セシ者ナレハ法ニ照ラシテ毫モ其法外ノ余利アル者ハ則

チ決シテ之ヲ有スルハハサレハ是ヲ以テ人民政府ノ檢地ヲ畏
ルコト虎ヨリモ甚タシ然レ若シ政府斷然之ヲ檢査セントセハ人
民決シテ之ヲ拒クノ權アルコトナシ然レハ則チ從來ノ民産タル
實ニ安定ナラサル者ト云フヘシ然ルニ此改正法ニ依レハ則チ其
現實ヲ檢定スルモ決シテ從前ノ貢額ヲ増サス苟モ從前ノ
民産タル者ハ假令ヒ隱田ノ類ト虽モ決シテ之ヲ奪ハズ現今
實地ノ收穫ニ就キ判然官有私有地ノ區別ヲナス是ヲ以テ
從前政府ノ禁ヲ犯セシ者只其罪ヲ免ルノニテラス其安定
ナラサルノ民産亦忽チ變シテ確乎不拔ノ家産トナリ富

強ノ基礎於是乎立タン民ノ幸福タル豈ニ淺少ナランヤ然レ
ハ則チ從前地所ヲ私有スルヲ得サル者忽チ之ヲ私有スルヲ
得從前確乎タル家産ナキ者忽チ万世不拔ノ家産ヲ生
ス既ニ土地ヲ私有シテ其家産ヲ安定全テラメント欲セハ
安シ政府ノ保護ヲ仰カサルヲ得ニヤ苟モ其保護ヲ仰カシ
ト欲セハ安シ其税ヲ出サルヲ得ニヤ況ヤ從前官廳ノ并ニ
郡村入費等凡テ地所ニ課シ收入セル者ハ官地民地ノ別ナシ
一般ニ賦課スルヲ以テ更ニ新税ヲ賦課スルモ其私收ノ實
數ニ至テハ必スシモ増減ヲ生セサルニ於テラヤ假令ヒ些少ノ

増減アルモ従前無税ノ地且ツ其他ノ諸物へ新税ヲ賦課
スルニ視フレハ何ソ彼此ノ別アラニヤ若シ此理ヲ察セスシテ我
國ノ田租ヲ以テ西洋諸國ノ地税ニ同シキ者ト誤認シ其官
地ヲ借レル者ヲ以テ地主ト定メ俄ニ全國ノ官地ヲ農民ノ私
有地ニ変エテ彼ノ地税ニ齊シキ輕税ヲ賦課スレハ則チ政府
ハ頓ニ其歲入ヲ減少シテ特ニ學校ヲ興ス等百般ノ利益ヲ
起スヲ能ハサルノミナラス遂ニ必ス今日ノ國費ヲ償ハスモテ家
祿ヲモ支給スル能ハサルニ至ラントス而シテ人民ニ在テハ有功無
功勤惰儉奢ノ別ナク唯官地ヲ借レル農民ノ不慮ノ福ヲ受

ケ其他ノ者ハ毫モ其澤ニ潤ハサルノミナラス従前土地人民ヲ私
有セ居ルノ華族士族ハ將ニ窮餓ノ水火ヲ蹈ハニ至ラントス
何ノ農民ノ幸ニシテ華族士族ノ不幸ナルヤ其不公平ナル
一此ノ如ク之ヲ策メ得タル者ト謂フヘケニヤ
但諸侯ノ未タ版籍ヲ奉還セサルヤ諸侯及其家臣各其
土地人民ヲ私有シ其土地ヲ以テ農民ニ耕種セシメ且ツ之ヲ使
役シテ其生殺典奪ノ柄ヲ執レル一猶西洋諸國ノ莊僕
主ノ其莊僕ニ於ケルカ如シ而シテ其土地人民ヲ私有スルヤ偶然
ニテ之ヲ得ル者ニアラス又盜テ之ヲ有スルニアラス或ハ才能

知慮ヲ盡シ或ハ身命ヲ抛キ必ス多少ノ功ヲ積ミ然ル後
ニ公然政府ノ命ニ依リ永世之ヲ受領ス苟モ人心アル者
豈ニ朝ニシテ之ヲ失フコト欲セシヤ然リト虽モ其土地人
民ヲ私有スルノ國家ニ大弊害アルヲ察シ断然自ラ
其版籍ヲ奉還ス而シテ王室モ亦敢テ之ヲ私有セス其
土地ハ日本政府ノ官地トナシ其人民ハ悉ク自主ノ民トラシ
ム於是乎諸侯及其家臣ハ忽キ彼ノ莊僕主ニ齊ニキ
其威權ヲ失ヒ農民ハ忽キ彼ノ莊僕主ニ齊ニキ免レ以テ
今日開明ノ域ニ馴致セリ之ヲ近來魯西亞ノ莊僕ヲ

廢セシ事跡ト比較スルニ彼ノ莊僕主ハ其莊僕ノ債金ヲ取り
且ツ其土地ヲ失ハス然レ猶怨ヲ懐キ竊ニ帝ヲ弑セントスル
ニ至レリ而シテ我カ諸侯ハ其人民ノ債ヲ取ラス且ツ其土
地ヲ併セラ之ヲ奉還シ僅ニ從前歲入ノ十一ヲ賜ハリ毫モ
怨色ナシ又彼ノ莊僕ハ其身ヲ債ヒ四十九年ノ久ヲ徑
テ始メテ全ク自主ノ民トナル而シテ我カ農民ハ其身ヲ債
ハスレテ忽キ自主ノ民トナル其^{優劣}果ニテ如何ノヤ
然レハ則チ我カ華士族ト農民ト其維新ノ澤ニ浴スル
孰カ厚孰カ薄亦々智者ヲ待テ知ラサルナリ然リ而シテ

